



なかやま けい

2年 | 中山 桂 さん [大阪府私立帝塚山学院泉ヶ丘高等学校 出身]

■ 推薦・一般も視野に、まずはAOで挑戦

小2の時アリジゴクに興味を持ち、高2までずっと研究を続けてきました。その過程で、砂浜が工業廃棄物で汚染され、アリジゴクの生息数が激減するという環境破壊を目の当たりに。「環境保全」に取り組みたいという気持ちが芽生えたんです。環境系の大学を探中、実習が充実している鳥大を発見。出かけたオープンキャンパスでは、ザトウムシ研究で著名な鶴崎展巨先生が「ザトウムシの染色体は生息地域によって違うけど、アリジゴクも違うんだよ」と教えてくださり、「鳥大なら環境について様々な角度から学べる」と確信。私のアリジゴク研究が活かせるAOをメインに、推薦→一般入試と、合格するまで挑戦しようと思ったんです。

■ 環境問題にアンテナを張り、知識を蓄えよう

高2の秋にAO受験すると決めてからすぐに小論文練習を開始。毎日2~3題、新聞のコラムを要約し、自分の意見を書きました。課題作業は過去問や他大学の問題を解いたり、グラフの書き方を研究するなどして対策。また、環境問題の新聞記事を切り抜いて知識を蓄積。2次選考の個人面接では地元の環境問題について問われるので、自分なりの見解を持ち、意見を言えるようにしておくことはとても大事ですね。大学では、鶴崎先生の勧めで「生物分類技能検定」にチャレンジしたり、韓国の南ソウル大学に研修に行ったりと、充実した学生生活を送っています。卒論ではやはりアリジゴク研究に取り組みたいな。

■ AO入試で求める人物像

募集人員(予定) : 5人

【趣旨】 地域環境(自然・歴史・資源・エネルギー・ライフスタイル)をトータルに学習し、調査・研究の実践力を身につけ、地域の環境づくりに貢献できる人材を育成します。地域環境学の課題解決に向けて、とくに意欲と実行力をもつ人を様々な観点から総合的に評価するAO入試を実施します。

次のいずれかに該当する、意欲ある人を求めます。

- 自然のなりたち、生態系の機能を学術的に学び、環境保全にとりくみたい人
- 自然と人の関係を歴史や考古学の面から学び、地域の共生史を解明したい人
- 環境にやさしい資源・エネルギー利用や産業・情報システムを創造したい人

鳥取のお気に入り

カフェを探して楽しくまち歩き

古民家再生、こだわりスイーツ系など、鳥取には個性的なカフェがいっぱい!まち歩きが楽しいんです。鳥大近くにも卵ふわふわのオムライスが美味しいお店が、ホッとひと息できますよ。

平成26年度AO入試第2次選考<選抜のポイント、面接・論文等の出題例等>

平成26年度AO入試がどのように行われたかについて、学部・学科の募集単位別にポイントや出題例を示したものです。

平成27年度AO入試が下記のように行われるということではありませんので、ご注意ください。

なお、AO入試の過去問題は、平日の9:00~17:00に、鳥取キャンパスは入試課、米子キャンパスは医学部学務課で閲覧することができます。

全体を通して求める力

自然現象や社会的現象などに対する科学的な視点や考え方、課題文や図表資料を読み解く読解力、面接での質問を聞き取る理解力、自分の考えを伝えるために必要となる論理的思考力、自己表現力、文章構成力、作図能力を求めます。

小論文	水資源に関する英文資料(A4版で1枚)及び日本文資料(A4版で2枚)を読み、120分で3問の設問に答えるものでした。設問の内容は、英文資料の内容把握(文字数の制限なし)、問題文の要旨(100~200字)、及び自身の考えの記述(600~800字)でした。
課題作業	解答時間は90分で、日本及び世界7ヶ国における利用エネルギーの比較に関する2種類の数値データから、それぞれグラフにまとめる作業を行い、作成したグラフから読みとれることを300~400字で記述するものでした。
個人面接	3名の面接官による、1人あたり13分の面接を行いました。